



OHARA サポーター倶楽部会報

丸窓

[第23号] 2020年11月

《掲載情報》

- ・大原美術館活動報告
- ・私が選ぶ この1点
- ・お知らせ など

発行:大原美術館後援会事務局

目録 大原美術館活動報告 1

大原美術館開館90周年記念フォーラム「時空を超える旅に出よう Covid-19のその先へ」を配信しました！

開催日:2020年11月2日(月)19:00~21:00

今年はじめには「開館90周年！」とイベントや式典を計画していましたが、Covid-19の流行に伴い、雲行きがどんどん怪しくなりました。この状況では過去の式典のようにお集まりいただくことは難しいと判断し、しかしながら、今だからこそできる形でと、記念フォーラムを企画しました。

メディアアーティストとして活躍中の落合陽一氏をゲストに迎え、ボストンコンサルティンググループ シニア・アドバイザーで当館理事でもある御立尚資氏が見事なコーディネート手腕を發揮される中、落合氏と高階館長が、その年齢差55歳とは思えないほどの盛り上がりと豊かな表現で対話を深めていかれました。雨模様の静かな夜、工芸・東洋館の棟方志功室で紡ぎ出された息をのむような言葉の数々は、まさに時空を超えたものとなりました。生配信は大原美術館にとっては初めての取り組みでしたが、フォーラム中は、常に200名以上の方々にご視聴くださいました。ただやはり「時間が合わなかった」「全てを視聴できなくてとても残念」等のお声をいただいているので、後援会会員のみなさまには、今回の記録集をお届けしたいと考えています。ぜひ楽しみにお待ちください！



左から、高階秀爾、落合陽一氏、御立尚資氏



©Norihiro Fujiwaka

目録 大原美術館活動報告 2

入場人数制限を少し緩和して、お待ちしております。

大原美術館が再開館して、おかげさまで大きな問題もなく約3ヶ月が経過しました。安心してご鑑賞いただける環境を整える為、休館中には何度も現場対応を検討し、協議を重ね、新しい気持ちにてスタッフ一同お客様をお迎えしています。日本博物館協会の感染予防ガイドラインを軸に少し厳しめの人場制限を設けているので、鑑賞時は安心してゆっくりと楽しめる反面、特に土日、祝日は入場時にお待たせすることや整理券配布が終了してしまうこともありました。政府による観光業界への支援策「Go To トラベル」の影響もあり、個人だけでなく、団体ツアーの観光客の方々も増加傾向となってきております。Covid-19の取り巻く状況も刻々と変化している中ではありますが、当館でも実態調査や協議を経て、10月中頃より、入場制限を少し緩和しています。開館90周年の節目の年を、このような状況で迎えることになりましたが、この経験が次の100周年の礎となるように、今後の変化にも柔軟に対応しつつ、明るい未来に踏み出していければと願っています。

今の美観地区は、秋色に染まる紅葉スポットです。そんな美観地区、そして当館へのご来館を心よりお待ちしております。



本館前風景



美観地区風景

後援会法人会員の企業・団体様にご協力をお願いしてポスターを製作している「私が選ぶ この1点」
取材内容をこの紙面でもご紹介します！

丸五ゴム工業株式会社 代表取締役社長 藤木達夫氏



2019年に世界各地のお客様10名ほどを大原美術館にご案内したことがある。他にはない贅沢な時間と空間を、皆さんに満足していただいた。倉敷にいることのありがたさだ。

私が好きな作品には自然や街並の風景画が多い。その中でもこのユトリロの作品が印象に残っている。街路樹の葉も落ちて、人もあまりいない冬の街。曇り空に覆われて、静けさを通り越して寂しさすら感じる。ユトリロは不遇な生涯であったと後に知った。そういう人生が絵に表現されているのかもしれない。でも私はこの絵が好きだ。

モーリス・ユトリロ 《パリ郊外ーサン＝ドニ》
49.8×73.0cm 油彩、厚紙 1910年

大原美術館からのお知らせ

開館90周年記念 限定入館券を販売します！



これからの冬季はお客様が減ることが予想されます。そこで、少しでも気持ちを

明るく、美術館へのご来館を促したいと、アーティストの福田美蘭氏がデザインした記念ロゴマークをあしらった、限定入館券を製作中です。このロゴ、開館90周年を祝して本年度はあちらこちらでPRし、ミュージアムグッズ展開も考えていましたが実現できず…この素敵な配色をみなさまにもっと知っていただきたい！という思いもあります。

主に、後援会法人会員様へのご案内とさせていただく予定の企画ですが、個人会員の方もお求めいただけますので、ぜひ、ご家族ご友人へのプレゼントにご活用ください。詳しくは後援会事務局へお問い合わせください。

クラウドファンディング、始めております！



クラウドファンディングQRコード

開館90周年である本年、Covid-19による社会的ダメージが文化芸術にも及ぼす影響が長期化し、倉敷という地で「広く多くの方に、本物の美術鑑賞の機会を提供し続ける」という孫三郎・総一郎の志と気概に、何度も思いを致す日々です。落ち込みが激しい観光地の要としても、また第二次世界大戦下でも訪れる人に扉を開き続けた美術館としても、「一般公開をし続ける」使命を改めて胸に刻む年となりました。運営資金の約8割を入館料収入が占めていた当館にとって厳しい状況が続きますが、存続に向けて総力を尽くしていく構えであります。こうした状況を鑑み、10月下旬から全国の方を対象とした寄付型クラウドファンディングに挑戦しています！（2020年12月25日まで）。遠方のお知り合いの方に紹介いただくなどのご協力をいただけますとありがたく存じます。

表紙の絵



クロード・モネ 《積みわら》
65.2×81.5cm 油彩・画布 1885年

積みわらが手前の日陰と奥の日向に一つずつ。その奥ではポプラ並木が風に揺れ、隙間からは遠くの山並みが垣間見えます。明るい色のタッチで満たされた画面は、描かれた場所の光や空気、時間の流れをそのままに伝えてくれるかのようです。手前に大きく描かれた積みわらには、もたれかかりくつろぐ二人の人物。太陽の暖かな日差しのもと、穏やかな時間が流れています。

後援会事務局より

Covid-19により不安な空気が蔓延していた今年の3月、先行きが不透明なまま「2020年年間スケジュール」をお届けしておりましたが、この秋の開館90周年記念特別展や人気アーティストの森村泰昌さんをお迎えしての有隣荘特別公開、ギャラリーコンサート、11月に予定していた美術講座など、現状では本年度の全ての行事が延期となっております。

また例年、12月に開催しております後援会イベント「感謝と親睦の夕べ」も多くの方が集まり、講演や飲食を楽しんでいただく内容ですので、中止とさせていただきます。楽しみにして下さっていたみなさまには誠に申し訳ございませんが、ご理解とご了承をいただきますようお願い申し上げます。

